

今日スクールソーシャルワーカーに問われている機能に関する研究
ー児童の成長を視野に入れたスクールソーシャルワーク機能のあり方ー

○ 和洋女子大学 洪 承載 (009857)

キーワード：スクールソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーク、機能

1. 研究目的

本研究の目的は、日本におけるスクールソーシャルワーカー（以下、SSWer）及びスクールソーシャルワーク（以下、SSW）に関する研究の文献検討を行うことにより、SSWerがこれまで担っている機能と課題について明らかにし、これから求められる機能について示唆を得ることである。

2. 研究の視点および方法

SSWerが、主に拠点としている場所は学校である。そのため、学校を拠点としているSSWerが欠かせないを考える。これまでのSSWer・SSWに関する研究では、児童生徒及び家庭が抱えている困難に焦点を当ててどのような働きかけを行うべきかの研究が多く、学校という場所を意識したうえでSSWerに求められる機能に関する検討が少なかった。ゆえに、学校という場所で働くといった視点からの検討が必要になると思われる。そこで本研究では、以上の観点から先行研究を検討し、今日のSSWerに求められる機能について考察を行う。

3. 倫理的配慮

本発表は日本社会福祉学会の「日本社会福祉学会研究倫理規程」に基づき、先行研究論文、引用文献を明示している。なお、本発表に関連して、開示すべきCOIはない。

4. 研究結果

上記のような研究視点を踏まえ、SSWerが果たす機能に関する先行研究からは、「ケースマネジメント」「人権擁護」「直接援助ならびにアウトリーチ」「不登校児に対する働きかけ」などの視点から検討していることが明らかになった（高橋真琴・石黒慶太 2019、高石啓人 2018、小野芳秀 2014、中典子 2014）。

また、学校という場所を意識したうえでSSWerに求められる機能に関する検討として、新保祐光・笠井穂乃香（2021）は、児童の生活全体を見る視点に基づき、学校と地域の関係機関の連携促進の重要性を指摘していた。一方、学校分野という新たな領域であることから困難を感じていることが明らかになった（岩永靖・茶屋道拓哉 2011：111-112）。

さらに、SSWer実践のあり方及び実践モデルの構築のためにインタビュー調査を行った

吉田志保・大熊信成（2022）は、SSWer による支援において、ソーシャルワーカー自身の手腕が大きく影響をするため、アプローチの選択や活用方法が違ってくことになり、ワーカーによって違う支援になりやすいと指摘している。すなわち、学校や自治体またはSSWerによって、支援の内容が異なることから、機能が明確ではないことが示唆された。

5. 考察

以上の結果を概観すると、SSWer には児童及び家庭が抱えている困難に対して多様な機能が求められているものの、学校という場所が持っている特性や機能を考えたうえでのSSW機能についての検討は十分に行われてないことが示唆された。

学校は、児童にとって、自身が抱えている困難を気軽に教員や専門職に話し合うことができ、クラスの友人と話し合うことで心理的安定を図る場所である。これに加えて、学校は、単に知識の伝達ではなく、児童の将来の選択肢を広げて、多様な知識やスキルを身につけてより豊かな生活を送ることが可能となる。要するに、児童の成長を支える場所である。そこで、SSWer は、学校を拠点としていることから、児童の成長を視野に入れたSSW機能を積極的に担うことが重要であると考ええる。また、児童の成長を視野にいれたSSW機能というのは、いま行われている支援や働きかけがその児童の将来にどのような影響を及ぼすのかを考えることを意味する。確かに、児童の成長というのは抽象的な表現であり、児童の成長をどのように捉えるのかはまだ議論の余地があると考ええる。

今後の研究課題としては、実践的な研究を通して、SSWer がどのように児童の成長を支えていくのかについて具体化していくことが求められる。

参考文献

- 岩永靖・茶屋道拓哉（2011）「スクールソーシャルワーカーの視座とかかわりに関する実践分析（1）—学校現場への視座とかかわり—」『応用障害心理学研究』10, 105-114.
- 中典子（2014）「不登校児童生徒に対するスクールソーシャルワーカーの支援:文部 科学省のスクールソーシャルワーカー実践活動事例集に基づいて」『中国学園紀要』(14), 129-138.
- 小野芳秀（2014）「スクールソーシャルワーク実践におけるアウトリーチに関する研究:学校不適応生徒に対する学習支援の実践事例を通して」『東北福祉大学研究紀要』38, 59-78.
- 新保祐光・笠井穂乃香（2021）「スクールソーシャルワーカーに求められている役割 —スクールソーシャルワーカーへの依頼内容の分析からの検討—」『鴨台社会福祉学論集』(29), 54-61.
- 高石啓人（2018）「スクールソーシャルワーカー法制化をめぐる課題と展望」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』63, 91-108.
- 高橋眞琴・石黒慶太（2019）「チーム学校の組織化から見るスクールソーシャルワーカーの役割」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』33, 11-18.
- 吉田志保・大熊信成（2022）「スクールソーシャルワークにおけるシステム構築の必要性について～新型コロナ（COVID-19）禍における就労支援～」『佐野日本大学短期大学研究紀要』(33), 47-63.